

第3章 ケーススタディ

過日、ハンバーサイド県と同県のスカンソープ市及びブースフェリー市と、ロンドンのハマースミス・アンド・フラム区を実地訪問し、芸術担当官や市議会議員、地元の芸術振興ボランティア団体へのインタビューを行い、現地の劇場を訪問した。

1 ハンバーサイド県、スカンソープ市及びブースフェリー市

ハンバーサイド県は、ロンドンから北北東へ約250km、電車で約2時間30分の北海に面した県である。昔は鉄鋼、漁業で栄えたが、現在は衰退し、当地の一人当たりのGDPは、英国平均の97%の水準となっている。電車等の公共交通の便が悪く、県内の85%は農地である。ハンバーサイド港（年間貨物取扱い量7千万トン、年間船舶利用者数73万人）が英国で有数の国際港であることを生かし、バルト3国、東欧を含むヨーロッパ全域から観光客を誘致し、大陸の地方団体との連携を深めようとしている。県内には、ハル市（Hull 人口24.7万人）、グリムスビー市（Grimsby 人口8.9万人）、スカンソープ市（Scunthorpe 人口6.2万人）がある。

この地域における、アーツ・カウンシルの92年度の援助総額は916千ポンドで、そのうち852千ポンドは、地域のRABであるヨークシャー・アンド・ハンバーサイド地域芸術協議会（The Yorkshire and Humberside Arts Board: YHAB）を通じて支出されている。

YHABは、芸術分野をビジュアル・アート、放送及び印刷芸術、複合芸術、ドラマの4つに分け、41団体に対して支援を行っている。YHABの93年度の収入は、5,057千ポンドでそのうちアーツ・カウンシルからの援助が4,639千ポンドとなっている。

また、地元の企業も数多く芸術支援を行っており、現地でプリンターを生産している日系企業のシチズン時計は、地元の警察の吹奏楽団への寄付の他、地元団体が行った日本人ピアニストのハンバーサイド公演にも、千ポンドを寄付している。

1) ハンバーサイド県

ハンバーサイド県は、面積3,508平方km、人口89万人で、イングランドで最も早く芸術担当官を置いた県である。また、グラスゴー市（スコティッシュ・オペラの本拠地）、バーミンガム市（世界的に有名なバーミンガム市交響楽団がある。）やリバプール市（ロイヤル・リバプール・フィルハーモニー管弦楽団がある。）等が芸術政策を都市の活性化の目玉事業に組み入れて成功したことに刺激され、芸術振興、ツーリズムをどのように組み合わせたら県内の経済発展に寄与するかに腐心している。

93年度は、総予算7億5千万ポンドのうち、約1,600万ポンドを芸術振興を担当するレジャー・サービス部に割り当てている。レジャーサービス部は、図書館の情報化と

移動図書館の数を増やすことに予算の約75%を使い、25%で芸術振興、ツーリズム、レクレーションをカバーしている。

このため、県では、芸術振興を長期的な視点から戦略的にとらえるとともに、教育や地域開発といった部局と共同で戦略を進めようとしている。さらにレジャー部は、県内で行われている芸術イベントについて絶えず情報を集め、県内の芸術発展の基盤を整備している。

また、芸術が地域を再活性させる触媒になるという考え方から、県内の市に芸術発展官を新設するよう呼びかけ、県が人件費の3分の1を3年間負担する制度を発足させている。すでに県内5市のうち4市がこのポストを置いた。

以下は、ハンバーサイド県が出資している芸術振興の代表的な団体である。

a. アート・リンク（Art Link）

身障者に芸術を身近に楽しんでもらおうという運動の結果、ハンバーサイド県と隣のリンカンシャー県、YHAB等が共同で設立した団体で、おもな仕事は、身障者や、過疎地域の住民の芸術活動を援助するものである。

b. ゲートウェー・ヨーロッパ（Gateway Europe）

1990年にアーツ・カウンシル、YHAB、県、民間会社等が共同で出資した組織で、ハンバーサイドを文化とツーリズムの面から活性化し、特にヨーロッパ大陸からの観光客誘致を大きな目的としている。

c. ハンバーサイド・ツーリング・エージェンシー（Humberside Touring Agency）

県、YHABが援助している団体で、プロの芸術団体とボランティアのプロモーターの仲介を主な業務としている。エージェンシーは、プロの団体から出演費用、公演可能な時期、技術的な要求等の必要な情報をを集め、ボランティアのプロモーターに流し、プロモーターはそれを受け、ディストリクト等に補助金を申請する。

このメカニズムは非常に有効に働いており、各ディストリクトの芸術振興担当官も、地域の人々が何を欲し、どのような芸術の動きが起こっているかわかるといっている。また、プロモーターも、招聘するプロの公演がディストリクトの政策に合致しているときには助成金を全額受けとることができる。出演団体は国レベルの芸術団体より、その地域の団体であることが多い。ただ、ディストリクトとしても、プロモーターが観客を集める努力を怠らないよう、適宜補助率を下げたりすることが必要だと語っている。

d. ハンバーサイド・カルチュラル・エンタープライズ・センター（Humberside Cultural Enterprise Centre）

古い学校を芸術産業用に改装したもので、建物内には、事務所、スタジオ、リハーサル室、レコーディング室等の施設が完備している。現在オーディオ・ビジュアル・コンピューター・グラフィック・セットを備えつつあり、劇団、ダンス・エージェンシー、教育劇団、ビデオ制作会社等が入居している。地域内の市民、芸術家が芸術活動のために使用す

る場合は、低廉な料金で使用できる。

次の団体は、ハンバーサイド県ではなく、アーツ・カウンシルが設立し、資金援助しているものであるが参考として紹介する。

e. 東部オーケストラ協議会（Eastersn Orchestra Board）

ハンバーサイド県、ヨークシャー県においては、特に著名なオーケストラは存在しない。そのためアーツ・カウンシルは、両県並びに地域内のディストリクトが国内外のオーケストラを招聘する際に、金銭援助することを目的として、東部オーケストラ協議会（本部ロンドン）を設立した。現在は、対象地域を両県に限らず、バークシャー県、オックスフォードシャー県、バッキンガムシャー県、イースタン RAB、イーストミッドランド RAB が管轄する地域の地方団体にも広げ、約 60 の地方団体が会員となっている。93 年度には、アーツ・カウンシルは 331 千ポンドを同協議会に出資した。県は、住民千人当たり年間 6.65 ポンド、ディストリクトは 25.51 ポンドを会費として同協議会に支払っている。援助方法は、以下の 3 種類である。

- a) オーケストラの出演料の 15 % を無条件で援助する。
- b) オーケストラの種類、曲目等でコンサートが赤字になる可能性がある場合、同協議会は招聘地方団体に最高 2000 ポンドまで損失補填する。
- c) 教育目的でオーケストラを招聘した場合年間 4000 ポンドを上限として援助する。

2) スカンソープ市

スカンソープ市は、県南部に位置し面積 33 平方 km、人口 62,400 人である。93 年度の予算規模は 4,309 万ポンド。芸術振興を担当するレジャー・サービス部の予算は、321.5 万ポンドである。市議会議員 40 名のうち 34 名が労働党という、労働党の基盤が非常に強い所である。

スカンソープ市では、芸術振興に携わる職員として、レジャー・サービス官、博物館・芸術担当官、エンターテーメントの 3 人の担当官を置いている。しかし、ハンバーサイド県が進めている芸術振興官の設置は、予算不足のため見送られている。レジャー・サービス部の予算のうち 89.2 万ポンドが博物館・芸術部門にあてられており、その大半は、市内の博物館、美術館の整備、全国を巡回する劇団を受け入れることのできるプロウライト劇場（座席数 382）、スイミングプールを改造してイベントを開催できるようにしたバース・ホール（座席数 900 ）に使われている。

ディストリクトのレベルでの芸術制作のうち、もっとも重要なことは、芸術イベントのための場所の提供、イベントのプログラミング、住民による芸術公演である。これらの劇場の主なイベントとしては、アーツ・カウンシルから助成を受けているような中規模の団体の巡回公演が多い。プロウライト劇場、バース・ホール以外にも、数か所のギャラリーと展示場がスカンソープ市によって運営されており、各種の写真展、クラフト展等が、プ

ロ、アマを問わず数多く開催されている。最近、アーツ・カウンシルはダンスやビジュアル・アートを重視する傾向があり、スカンソープのように巡回劇団を当てにしているところでは影響が大きい。英国には伝統的にアマチュア劇団のしっかりした基礎があるが、近年の家庭でできるレジャーの普及等により、地方において人を劇場に引き付けることが困難になりつつあると市担当者は語っている。



バース・ホール

3) ブースフェリー市

ブースフェリー市は、県西部に位置し、面積65平方km、人口66,400人で、93年度予算規模は約2,100万ポンドである。芸術に関する仕事は様々な部門にまたがるが、主なものは事務総長部に属している。職員のうち芸術発展官のみが専門の芸術ポストである。

92年度の純粋な芸術支出は60,492ポンドで、うち半分が職員の給料や管理費で、残りが芸術支援にあてられるという、非常に限られたものとなっている。ブースフェリー

市には専門の芸術劇場がないが、人口密集地域であるグールとイプワース地区にはレジャーセンターがあり、特にグールのレジャーセンターは、東部オーケストラ協議会の会員として、ロンドンのロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団やB B C 交響楽団の演奏会や、スコティッシュ・バーの公演を開催している。この他8千ポンドの予算を組んでアマチュア活動家のために「アーツ・イントゥ・アクション計画」を、プロの活動家のために「ライブ・アーツ計画」を実施し、活動援助を行っている。

市は、芸術を市民の生活の質の向上に貢献するものと考え、住民を芸術の創造者であり消費者と考えて、ロンドンの有名なオーケストラや中規模な劇団を年最低2回招いている。

ブースフェリー市は、ハンバーサイド県が接触を持っているエージェントから公演の仲介を受け、スカンソープ市と同じような「パートナーシップ・プロモーション計画」を実施している。ボランティアの住民が、プロの芸術家を呼んだりする際に補助金を出し、万一損失が生じた場合には市が補填するという事業である。市はこのようなボランティア団体のネットワークを整備することを目標としている。芸術担当官のポストについては、その費用の3分の1が県によって支払われ、公演への助成も県からなされており、全面的に県に依存していると言える。

2 ハマースミス区（Hammersmith and Fulham）

ハマースミス区は、テムズ川の北西部に位置し、面積16平方km、人口156,400人。昔から存在するインナー・ロンドンの区の一つで、その大半が人口密集地帯で、持ち家、公営住宅、民間賃貸住宅にそれぞれ人口の3分の1ずつが住んでいる。1991年の人口調査では82.5%が白人、10.2%がアフロ・カリビアン、2.9%が東南アジアなどとなっている。

芸術活動が盛んで、芸術援助の歴史も古い。92年度の総予算は1億7,200万ポンドで、そのうち純粋な芸術予算は95万ポンドである。うち約10万ポンドが3人の職員の給料とその他管理費に、残りの85万ポンドが直接運営している施設の運営費と区内にある大小様々な劇場をはじめとする芸術団体への補助金に充てられている。

芸術を担当する芸術・エンターテイメント課は、レジャー・レクレーション部に置かれている。課には、課長、ビジュアル・アート担当職員、アフロ・カリビアン芸術担当職員が常勤のスタッフとして置かれ、場合によっては、イベント・オーガナイザーを置くこともある。アフロ・カリビアン担当職員は、他の部署のアフリカ系住民に対する政策を担当する職員と連絡を取りながら、より柔軟で広範囲に、区内のアフリカ系住民の芸術、アーティストの活動を援助していくのが本来の仕事である。

区の芸術理念として、

- ・芸術は、人間を教育し、発想を豊かにする。
- ・芸術活動は区内の経済活動を活発にする。
- ・芸術はすべての民族の文化的摩擦を克服する。

を掲げ、芸術を市民の生活の質を高める上で必要欠くべからざるものと考えている。

ここではまずハマースミス区の最近の芸術支援の歴史を紹介する。

住民への芸術の提供が英国地方団体の活動で大きな割合を占めるようになったのは、1970年代後半からである。芸術・レジャー部門の一番の隆盛は1980年代前半で、ロンドンの区のほとんどに芸術課が置かれていた。法律によって地方団体の責務とされていないにもかかわらずこのように積極的に行われた理由としては、景気が絶えず上向きで予算に余裕があったこと、急激な都市化により都心に住む人が減り始め、政府が人を呼び戻す対策としてロンドンの地方団体に地域活性化の予算を付けたこと、地方団体がスポーツ施設の改造、建設とともに芸術振興に力を入れたことが考えられる。

その後1980年代後半になると、予算の逼迫やそれらの意義が減じたことから、アーツ・カウンシル等の上部団体の芸術政策と方針が合致しなければ予算が付かない状況となってきた。現在、各地方団体は、芸術の政策に通じた担当官を雇うことでノウ・ハウを積み、同時に知識の少ない職員を解雇するといった苦しい状況に置かれている。

ハマースミス区の直接運営によるのは、音楽施設1か所だけである。これは、ハマースミスには芸術を実践する場がないという声が住民から出て、それに応じる形で1991年

にオープンしたものである。ここにはレコーディング・スタディオ、レンタル楽器、リハーサルや公演のためのホール、地域の芸術団体が入居できる事務所等が入っている。

また、同区は他の地方団体と同様に、区の芸術制作と合致した目的をもって公演を行う団体を支援しており、その審査では、できるだけ柔軟な発想を試みている。さらに、大きな劇場を対象として「スタンダード・レベル・アグリーメント」計画を導入し、長い目で芸術を育てるという視点で、最低3年間は安定した援助をしようとしている。

同区内には革新的な劇を演じることで国際的に有名なリリック劇場とブッシュ劇場があり、93年度にはリリック劇場に予算約90万ポンドのうち30%を、ブッシュ劇場には同じく約50万ポンドの予算のうち約15%をハマースミス区が援助している。また、両劇場では、地域住民のためにシェイクスピア劇の輪読会や子供のための演劇ワークショップを開催したりと、教育的配慮も示している。

また、リバーサイド・スチュディオという劇場や映画館等が入った複合施設に対しても、同区は93年度の年間予算約百万ポンドのうち、30%を助成している。リバーサイド・スチュディオでは、大人の演劇、映画以外に、入場料1~2ポンド（付添いの父兄は無料の場合も）で子供のための演劇や映画が定期的に提供され、子供たちのための演技指導、演劇制作、音楽、サーカスなど、様々な分野にわたってワークショップが開かれている。



リリック劇場

おわりに

去年英國に来て一番感心したのは、成人教育でピアノ、バイオリン、フルート等の楽器を教えていることであった。地方団体がやっていることだから受講料が安く、週1回約10か月で1万5千円くらいで、初心者、中級者、上級者とレベル別に講座が組まれている。

私自身も『オペラの観賞のしかた』という講義を受講した。生徒の職業は、電気店の店員、高校の先生、福祉カウンセラー、医者、大金持ちのユダヤ人、年金生活者、主婦等様々で、全員に共通するのはオペラが何より好きなことであった。楽譜が読める人ばかりではなく、音楽の専門的な知識を持っているわけでもない。しかし、彼等の生活には、劇場の生の音楽が深く組み込まれているのである。

英國に住んでいると、クラシック音楽だけでなく、美術、演劇、ダンスなどが非常に低廉に供給されていることに驚く。先日の阪神大震災のおり、チャリティー・コンサートを開きたいという日本人の音楽家のために300人程度収容できるピアノとオルガン付きの小ホールと教会の賃貸料を調べたが、1時間で2千円から5千円であった。日本のカラオケルームの方がよっぽど高いだろう。生の音楽に接する機会が多いことと自ら演奏会を開くことが非常に容易であることは、芸術に対する態度にいろいろな影響を及ぼすと思われる。

日本では、生の音楽を聞く機会が少ないのでCD・ビデオ等から演奏家を判断するが、こちらではあくまで生の演奏会で評価が下される。日本では特別な存在となっている演奏家でも、英國では、ひどい演奏をすれば昨日は不作であった等と新聞に書かれる。また逆に無名であっても良い演奏をすれば「ぜひ次回は切符の手配を早めに」等とほめる。

芸術に直に接することが非常に重要であるとだれもが認識しているので、公的部門が万人が払える値段でそれを提供しなければならないと考えるのは当然である。演奏会を簡単に開くことができるという状況は、一方で、才能ある新人が出やすい反面、アーティスト間での競争と、絶えず切磋琢磨しなければならない状況を生み出す。そしてこれが芸術の新たな展開を促す結果となっている。

このレポートでは触れなかったが、教会の存在も芸術振興という点では大きい。日曜日には賛美歌を一般市民が歌い、聖書から芸術的インスピレーションを受ける人も多い。

日本は、世界でも指折りの経済大国になったが、経済的余裕のある内に芸術のインフラストラクチャーを整備し、人材を育てておかなければならぬと思われる。予算がなくなると真っ先に切り詰められるのは芸術だということは英國でも証明されている。

参考文献

第 1 章

British Music Yearbook 1995, The Music Scales Group

Annual Report of

the Royal Opera 93/94

ENO 93/94

South Bank Centre 93/94

Barbican Centre 93/94

LSO 92/93

第 2 章

Arts Council Annual Report 93/94

London Arts Board Annual Report 93/94

Developing Arts in the Counties, Association of County Councils, London

Local Authorities, Entertainment and the Arts, Audit Commission, HMSO, London 1991

ABSA Annual Report 93/94

「CLAIR REPORT」既刊分のご案内

| NO | タイトル | 発刊日 |
|---------|----------------------------------|------------|
| 第 107 号 | 地方団体と芸術支援 | 1995/9/22 |
| 第 106 号 | オーストラリアにおける姉妹都市交流の動向 | 1995/9/22 |
| 第 105 号 | フランス地方選挙のあらまし | 1995/7/20 |
| 第 104 号 | タイの教科書にあらわされた「日本」 | 1995/7/10 |
| 第 103 号 | 大韓民国の地方選挙について | 1995/6/20 |
| 第 102 号 | ルクセンブルグの地方自治のあらまし | 1995/6/20 |
| 第 101 号 | 米国の公共図書館 | 1995/6/12 |
| 第 100 号 | 米国の州政府の財政運営と政府間関係 | 1995/3/20 |
| 第 99 号 | ノルウェーのフリー・コミューン・プログラム | 1995/3/13 |
| 第 98 号 | 1994年中間選挙 一地殻変動をもたらした米国政治の動向一 | 1995/2/28 |
| 第 97 号 | 英国の公立図書館 | 1995/2/28 |
| 第 96 号 | アメリカン・インディアン 一その過去・現在・未来一 | 1995/2/14 |
| 第 95 号 | ロンドンの分散(Decentralisation)政策と都市開発 | 1995/1/20 |
| 第 94 号 | フランスの学校教育における「日本」 | 1995/1/20 |
| 第 93 号 | 大韓民国地方行財政の概要 | 1994/12/15 |
| 第 92 号 | シンガポールの住宅政策 | 1994/12/1 |
| 第 91 号 | 欧州文化都市制度 | 1994/9/19 |
| 第 90 号 | 1994年英國統一地方選挙と欧州議会議員選挙 | 1994/8/1 |
| 第 89 号 | 英国における多民族社会の中の学校教育 | 1994/6/20 |
| 第 88 号 | アメリカの学校給食 | 1994/6/20 |
| 第 87 号 | 現代フランス都市計画の手法(2) | 1994/5/30 |
| 第 86 号 | 現代フランス都市計画の手法(1) | 1994/5/30 |
| 第 85 号 | フランス・アキテーヌ州の沿岸リゾート整備 | 1994/5/27 |
| 第 84 号 | 地方公務員のための「イギリス憲法入門」 | 1994/5/23 |
| 第 83 号 | 統一ドイツと財政調整 一連邦制財政システムは生き残れるか一 | 1994/4/15 |
| 第 82 号 | アイルランド 一国の仕組みと地方自治一 | 1994/3/25 |
| 第 81 号 | イギリンドの地方団体と住宅政策 | 1994/3/15 |
| 第 80 号 | 内側から見た英國 | 1994/3/15 |
| 第 79 号 | 英國の地方団体構造改革の動向 | 1993/12/24 |
| 第 78 号 | 英國の社会保障の現状及び今後の動向 | 1993/10/15 |
| 第 77 号 | イギリンドとウェールズの水道 | 1993/10/15 |
| 第 76 号 | フランスの高齢者福祉(2) | 1993/9/30 |
| 第 75 号 | フランスの高齢者福祉(1) | 1993/9/30 |